

令和 4 年度 園の自己評価

		評価 (1～5)	今年度の状況
教育・保育	園児一人一人が安心感と信頼感をもって活動に取り組む体験を十分に積み重ねられるようにする	5	園児一人一人に合わせて対応し、信頼関係を土台に子どもの「やってみよう」を見守りながら積み重ねられた。
	主体的な活動を促す環境の工夫をする	5	園児達の興味や成長に合わせて、環境を変えたり、用具や材料を準備したりできた。
	自発的な活動としての遊びを通して指導を行う	5	遊びを中心とした保育を考え、時間を十分にとり、自発的に遊び、その中での学びを大切にしたい。
	園児一人一人の特性や発達に応じた指導を行う	5	園児一人一人の姿を日々クラス内で話し、職員間で連携を図りながら、安心して過ごせるよう援助を行った。
	活動によって幼保連携型認定こども園教育保育要領に示されている3つの資質・能力が育まれている	4	生活を通して資質・能力が育まれるような活動は行っているが、どんな事が養われるかなどについての意識をもっと高めていきたい。
	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を意識し、教育・保育にあたっている	4	保育を振り替えると、10の姿を保育活動に取り入れられてはいるが、意識するという点では足りなかった。
	小学校との連絡会に参加し、小学校教育と円滑な接続ができるように情報交換をしている	4	今年度もコロナ禍により直接交流する機会はなかったが、小学校から紹介動画をいただき、5歳児は学校への期待が膨らんだ。また、一人一人の姿はしっかりと学校と情報交換することはできた。
健康支援	学校保健計画に沿った保健活動を行う	4	コロナ禍も続いており、集団での保健活動には制限があり、園児、職員個々に声かけ、指導するように努めた。
	園児の機嫌や食欲、顔色を観察し、平常とは異なった状態かどうか注意を払っている	5	クラス毎に検温、視診を行い、いつもと違う様子や症状がある時は、園長、主幹、看護師、担任で情報共有し、対応した。
	体調不良や怪我が発生した場合、保護者に園児の状況を連絡し、適切な対応をとっている	5	園長、主幹、看護師、担任で園児の情報共有し、状態に応じて迎えの連絡や、発熱児の隔離、怪我の場合は病院受診をした。
	園児の成育歴や罹患歴、予防接種状況などの情報を把握している	5	入園時、進級時に保護者に保健調査票のチェックをもらった。感染症罹患後、登園時に登園届や治癒証明書を提出してもらった。
	保健だよりにて情報発信をしている	5	季節に合わせて病気や健康管理の情報や、新型コロナウイルス感染症の感染状況を適宜お知らせした。
	感染症に対して感染症情報を保護者に伝え、感染症予防に努めている	5	ほけんだよりやホワイトボードに感染状況を掲載、掲示したり、園のメールでPCR検査の検査状況を送信したりした。
	感染症の疑いのある園児に対し、他児と接触しないようにするなど適切な処置、対応をしている	5	嘔吐処理など適切に行い、発熱、風邪症状、腹部症状のある園児は、医務室に隔離し、迎えまで様子を見た。
	睡眠チェックを年齢に合わせて必ず行い、SIDSの危険因子が無いようにしている	5	0. 1. 2歳児クラスは、睡眠チェック表にて観察、体位のチェックを行い、午睡中の室内環境を整えた。(園児周囲、室温、湿度など)
	AEDの使い方も含めた心肺蘇生法について職員全員が理解できるようにしている	4	全職員会議で、誤飲時の対応、心肺蘇生について研修を行ったが、定期的に訓練できるように、機会を設けていきたい。
食育	食育計画に沿って園児が食への興味や関心を高めることができるような活動や関わりをしている	4	園児の興味、関心は感じられたが、職員間でももう少し話合えれば良かった。
	安全、安心な給食やおやつを提供している	5	衛生管理を徹底して行うことができた。
	旬の食材を使用したり、行事食を取り入れたりするなど季節を感じられるような献立作成をしている	5	旬の食材や行事食を意識し、食べやすいように工夫して行うことができた。
	栄養だよりにて情報発信をしている	5	毎月の給食だよりを発行し、園での食育の様子等を情報提供をできるように努めた。
	食物アレルギー対応を適切にしている	5	毎年アレルギー児、保護者と面談を行い、家族との情報共有を行った。また、色別食器、個別の除去献立作成を行い、誤食が無いように努めた。職員間でもしっかりと共有していきたい。
	離乳食は家庭と情報交換をし、一人ひとりに合わせた献立を作成し、提供している	5	その都度相談し合いながら、一人一人の成長に合わせた離乳食の提供ができた。
環境・衛生管理	室内の換気を適宜行い、室温、湿度や明るさ、音の大きさなど園児が心地よく過ごせる環境を整えている	5	室温、湿度をこまめにチェックしながら、換気をしたり、各保育室の加湿空気清浄機を使用したりした。
	嘔吐物、排泄物の処理に当たっては感染防止のための処理を徹底している	5	看護師を中心に嘔吐物処理や他児への対応を迅速に行った。オムツ交換時の手洗いも徹底している。
	衛生的な空間で園児が生活できるよう、丁寧な清掃を行っている	5	全ての清掃場所を担当で割り振り、責任をもって清掃した。玩具消毒も丁寧にやっている。
	調乳や園児の食事介助の際には、手洗いや備品の消毒をするなど衛生面の配慮をしている	5	調乳、食事介助前には手洗いをし、エプロン、三角巾を着用した。机、椅子も丁寧に拭き取り、清潔を保っている。
災害への備え	学校安全計画・危険等発生時対処要領に基づき、災害等の発生に備えるとともに、防火設備、避難経路等の安全点検を定期的に行っている	5	定期点検以外にも、危険箇所等があった際は速やかに改善できるように、職員間で共有し対応した。
	危険等発生時対処要領に基づき、緊急時の対応の具体的内容、手順、職員役割分担について確認をしている	4	各自役割を理解はしているが、実際の大災害等が起き際に迷わず動けるか、不安な職員もいるので、繰り返し話し合いが必要。
	毎月1回、避難訓練及び消火器訓練を行い、反省をして改善点について検討している	5	時間を告知せずに行う訓練を多く取り入れたため、どんな場面でも職員間で連携を図り、避難をすることができた。
	災害発生時の保護者への連絡、子どもの引き渡しを円滑に行えるよう体制や手順を決め、引き渡し訓練で確認をしている	5	職員間で実際の災害を想定し、緊張感をもって訓練を行うことで、保護者の方にも雰囲気や伝わり、意味のあるものとなった。
	防災備蓄を用意し、保存期間の確認、必要に応じた入れ替えを行っている	5	年度始めや、年度途中など定期的に備蓄の消費期限等、確認・入れ替えを行った。
	園児の人数確認を定期的に行い、所在把握をしている	5	残留児確認マークを作成し、職員間で共有したことで、訓練時の残留児確認がスムーズになった。散歩先や、園内でも、定期的に園児の所在確認を行えた。
事故防止	遊具や玩具の安全点検を定期的に行っている	5	日々の保育中に各職員が玩具の破損や危険がないか確認した。異常や破損がある際は報告し、対応を行った。
	園外での活動に際して、事前に危険箇所を把握し、安全に活動できるようにしている	5	公園や散歩経路等に危険箇所等があった際は、朝礼や会議で報告し、周知できるようにした。
	日常的な事故予防として、ヒヤリハットを収集、分析し、事故予防対策に活用している	4	ヒヤリハットがあった時には、速やかに報告はしていたが、分析や対策等職員間で共有が足りなかった。
	不審者の対応など危機管理について職員で周知している	2	不審者対応の話は職員間で行っていたが、講師を招いた訓練等は行えなかったため、次年度は行いたいと思う。
	睡眠、プール活動、水遊び、食事等の重大事故が発生しやすい場面について、マニュアルに基づきその場面に適した適切な対応を行っている	4	万が一に備え資料を用いた職員講習を行い、職員が対応できるようにした。
子育て支援	保護者が積極的に半日保育体験に参加していただけるよう文書や掲示等で促している	5	コロナ禍ではあるが、状況が落ち着いてきたのもあり、乳児、幼児共に期間を設け、沢山の方に参加していただけた。
	保護者からの相談に対してはプライバシーの保護や守秘義務を守り、親身に耳を傾ける態度で対応する	5	担任だけに限らず、全職員間で共有したり、園長や主幹が相談にのり、対応の仕方を話し合うことができた。
	状況に応じて内部の体制をとったり、外部機関との連携をとり、適切な家庭支援を行う	5	各クラスにおける状況を、園全体で把握したり、療育センター、教育センター等と連携を図り、園児や保護者への関わり方の助言をいただいた。
	地域における子育て家庭の保護者等に対する支援を適切に実施している(育児相談・園庭開放・子育て情報誌)	5	コロナ禍もあったが、園庭開放や、園の外にある掲示板にて園の様子を知らせることができた。
資職上質員向	内部研修を計画的に行い、職員が共通認識の下で教育・保育にあたるようにする	4	園内研修係が企画し、パソコン業務や運動遊びの研修を行ったが、保育内容についての研修は少なかった。
	キャリアアップを含む様々な内容の外部研修に参加できるよう職員体制を整え、資質向上に努める	4	オンライン研修を主とした外部研修に沢山参加したが、保育のため参加できない職員もいた。